2010－2011　フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書　９月分

作成者：山本　由貴

2010. 10. 02

皆様、はじめまして。2010 年９月より、アメリカ・フィンドレー大学に留学させて頂いています、山本由貴です。福井県奨学生として、フィンドレー大学で学べることを大変嬉しく思います。この留学を支えて下さっている全ての方に、心から感謝しています。感謝の気持ちと初心を忘れずに、フィンドレー大学で一つでも多くのことを学び、将来英語教員として福井県の子どもたちに学びを伝えていけるよう頑張ります。

報告書を通じて、アメリカのことや、この奨学生制度に興味を持ってもらえれば幸いです。今回の報告書は、生活環境や授業について、大学内でのイベントを中心にまとめました。大学の情報については、以前の奨学生の方が詳しく報告して下さっているので、省略させて頂きます。

＜授業について＞

私は、学部生としてアメリカの学生と共に授業を受講し、今学期はライティング、英語学、コミュニケーション学、スピーチ、日本文化の５つの授業をとっています。１つの授業が週に２～３回ある点が、日本の大学とは大きく異なる点だと感じます。また、課題も多く出され、予習・復習、課題と忙しい日々を送っています。受講しているクラスのいくつかは、アジア人が私だけという授業もあります。アメリカの授業では、常に自分の考えが求められ、発言することでクラスの一員として認められていく、という雰囲気があります。また、さまざまな学年の人が一つのクラスで授業を受けていますが、こちらでは先輩後輩という概念は殆ど感じられず、個人のアイデンティティーが尊重されています。毎回、内容の濃いディスカッションができるので、とてもおもしろいです。

＜アメリカでの生活について＞

キャンパス内には、寮に加えて、２～９名の学生が共同生活を送れる一軒家が立ち並んでいます。私はそのうちの一つの家に、９人で住んでいます。９人のうち６名がアメリカ人で、私を含めた残りの３名が日本人です。６名のアメリカ人のうち、数名は日本語を勉強している学生なので、日本に大変興味をもってくれています。ハウスメイトは皆とてもフレンドリーで、毎日笑い声が絶えない生活を送っています。生活を送る中で、アメリカの文化や英語の使い方について疑問に思った際には、彼女たちにすぐに聞けるので、とても有難いです。毎日が、発見と学びの連続になっています。

＜学内でのイベントについて＞

学内では、ほぼ毎週どこかでイベントが開催され、フリーフードやフリーT シャツが配られています。こういったイベントに参加すると、「アメリカの大学に来たんだな」と改めて実感します。９月の大きなイベントとしては、埼玉県から知事や議員の方々がフィンドレー大学を訪問されたことが挙げられます。埼玉県とオハイオ州は姉妹都市として協定を結んでおり、今年で２０周年を迎えるそうです。それを記念して、セレモニーや、埼玉県出身の活弁士による活弁が開かれました。

その会場で、この福井県奨学生制度を創設してくださったフリード前学長に直接会ってお話をすることができました。この奨学生制度は今年で５年目となりますが、今後も福井県とフィンドレー大学の交流が長く続いていくことを私は願っています。フィンドレーの町の雰囲気は、福井にとてもよく似ており、大変住みやすい所です。留学には、最高の環境だと私は思います。このフィンドレー大学で勉強させて頂けることを、本当に嬉しく思います。

2010 － 2011　フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書　10 月分

作成者：山本　由貴

2010. 11. 07

アメリカで生活を始めてから、もうすぐで３ケ月が経とうとしています。振り返ってみると、本当に充実した毎日を送れていることが分かります。少しずつアメリカの生活スタイルや、授業スタイルにも慣れてきました。アメリカ人の友達も増え、皆に支えられながら生活しています。残りの留学期間も、自分から積極的に行動し、人間関係を広げていきたいと思います。

今月の報告書では、10 月に行われた学長の就任式、Fall Break(秋休み)、ハロウィンについて報告させて頂きます。

＜Inauguration(就任式)：10 月 1 日＞

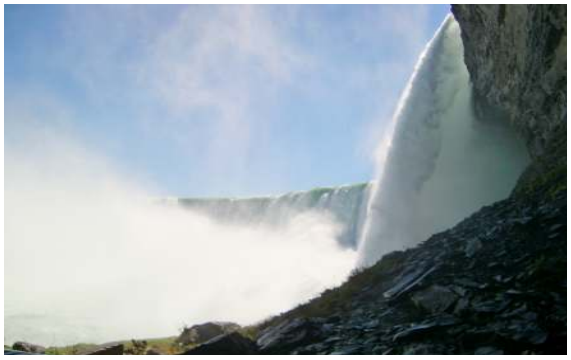
この日は、フィンドレー大学の新しい学長の就任式が行われました。学長に就任されたのは、Dr. Katherine Fell さんです。フィンドレー大学の学長に、女性が就任するのは初めての事だそうです。式は、キャンパス敷地内の屋外で開かれました。福井県奨学生制度の創設者である、フリード前学長も参列されていました。このような貴重な場に立ち会えたことを大変嬉しく思います。

新学長が就任後、キャンパス内のジムがリニューアルオープンしました。建物の中には、様々なスポーツができるよう最新の設備が整えられています。学生であれば無料で利用できます。また、ジムの中には休憩できるカフェまでありました。右下の写真は、リニューアルオープンしたときの式の様子です。

(左上写真：http://www.findlay.edu/offices/adminoffices/presidentsoffice/fellremarks/presinaugremarks_oct10.htm より)

＜Fall Break(秋休み)：10 月 7 日～10 日＞

秋休みを利用して、カナダにあるナイアガラの滝を友達と見に行ってきました。ここフィンドレーからは、車で８時間程かかりました。ナイアガラの滝を写真では見たことがあったものの、目の前で見ると、やはりその迫力に驚かされました。また、自然の力を感じさせられました。当日は、天候もよく虹が何度も見られました。



＜Halloween(ハロウィン)：10 月 31 日＞

アメリカ人にとって 10 月といえば、やはりハロウィンです。10 月に入ると、お店のあちこちにハロウィンに関する商品が並び始めます。また、ハロウィン用に飾りつけをする家もたくさん見られました。私は 26 日に、カンバセーションパートナーの Deb さん夫妻と一緒にハロウィンパレードを見に行きました。地域の学校や会社、団体などがそれぞれ仮装して、メイン通りを練り歩いていました。28 日には、Jan さんという方がお家に招いて下さり、Jan さんのお子さんと一緒に、小さい子たちにお菓子を配りました。Trick or Treat を実際に経験できて嬉しかったです。31 日のハロウィン当日も、Jan さんの家で夕ご飯をごちそうになりました。私をまるで家族の一員のように迎えて下さり、本当にありがたく思います。Jan さんは大学内の保健センターに勤務されている方です。大学内で、少しお話をしたことがきっかけで、その後も親しくさせていただいています。こういった親切な方が多いのも、フィンドレーならではだと思います。

2010 - 2011　フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書　11 月分

作成者：山本　由貴

2010. 12. 08

11 月は、とても忙しい一ヶ月となりました。忙しい中でも、大学の授業と課外活動をしっかり両立できたと思います。課外活動としては、大学の近くの中学校で日本について授業をさせて頂きました。また、福井県についてのプレゼンテーションを大学の学生向けに行いました。他にも、老人ホームを訪問するボランティアにも参加しました。今月の報告書ではこれらの活動に加えて、11 月の Thanksgiving Day についても報告させて頂きます。

＜Glenwood Middle School (グレンウッド中学校)での授業＞

大学近くの中学校で、日本について授業をする機会を与えて頂きました。私が入らせて頂いたクラスは、社会科を専門にされているフィリップ先生のクラスです。フィリップ先生と生徒との間に、既に信頼関係が築けているクラスだったので、とても授業がしやすかったです。生徒たちは、とても意欲的に授業に参加してくれました。授業後も、興味を持って質問をしに来てくれる生徒が沢山おり、今回授業を担当できて本当に良かったと思います。今回の授業を通して、「当たり前だと思っている自国の文化を見直すことの大切さと面白さ」に改めて気づくことができました。また、アメリカの授業スタイルを実践してみて、日本で行われている授業との違いを実感することができました。ここで学んだことを、将来日本で教壇に立った時に生かしたいと思います。このような機会を与えて頂けたことを本当にありがたく思います。今後機会があれば、アメリカの色々な校種で授業をしてみたいです。

＜福井県についてのプレゼンテーション＞

大学で日本語を専攻している学生向けに、福井県についてのプレゼンテーションを行いました。昨年福井大学に留学していたジェニファーさんと、今年の福井大学からの留学生花川さんも一緒に行いました。プレゼンのあと、学生たちからは「今すぐ福井に行きたくなったよ！」などの嬉しい声が沢山聞かれました。これからもアメリカの人たちに、福井県の魅力を伝えていきたいと思います。

＜ボランティア活動(Service Ambassadors Program)＞

今学期、私は Service Ambassadors Program という活動に参加しました。このプログラムは留学生とアメリカ人がペアを組み、毎週１回、同じ場所にボランティアに行くというものです。私のパートナーは、大学で作業療法を勉強しているケルシーさんです。毎週同じ老人ホームへ行くので、回を重ねるごとに、お年寄りの方々とも仲良くなることができました。この活動を通して知り合った人たちとの出会いを大切にしていきたいです。

＜Thanksgiving Day(感謝祭)について＞

Thanksgiving Day はアメリカとカナダの祝日の一つです。アメリカでは、11 月の第４木曜日が Thanksgiving Day になっています。そのため、大学も木曜日と金曜日が休みになりました。その休日を利用して、アメリカの学生たちは皆実家に帰ります。Thanksgiving の日には、多くの親族や友人が集まって食事会をし、神の恵みに感謝するそうです。私は、アメリカ人の友達の祖父母の家へ一緒に連れて行ってもらいました。彼女の祖父母の家は、インディアナポリスにあります。私たちが家に着いたときには、すでに彼女の両親や親せきが集まっていました。皆さんは私をとても温かく迎え入れて下さり、アメリカの Thanksgiving Day を満喫することができました。食事会では、大きな七面鳥の丸焼きやマッシュポテト、パンプキンパイ、アップルパイなど Thanksgiving Day ならではの料理を頂きました。どれも、家庭の味がして本当においしかったです。

2010 － 2011 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 12 月分

作成者：山本 由貴

2011.01.10

12 月は、第 2 週目に期末試験がありました。今学期を振り返ってみると、授業が始まったばかりの頃は学部の授業についていく事で精一杯でしたが､少しずつ勉強の仕方が分かり毎日の授業が楽しくなりました。12 月末に成績が発表され、すべての授業で A のグレードを取得することができました。質問に丁寧に答えて下さった先生や、一緒に勉強してくれたアメリカ人の友人など、多くの人のサポートがあってこそだと思います。本当に恵まれた環境で勉強させてもらっていることに感謝しています。

期末試験が終わると、大学は約 1 ヶ月間(12 月 10 日～1 月 9 日)の冬休みに入りました。ほとんどのアメリカ人学生は休みを利用して実家に帰ります。学生の多くは「早く家族に会いたい！」と話しており、冬休みを心待ちにしているようでした。私は冬休みの間、アメリカ人の友人の家にホームステイさせてもらいました。その土地ごとに独自の英語と文化があり、地理的な意味だけでなく、社会・文化的な意味でもアメリカの広さを実感した冬休みとなりました。今月のレポートでは、冬休みの内容を中心に報告させて頂きます。

◆アラスカ（アンカレッジ）◆

まず 1 つ目の行先は、アラスカです！昨年、フィンドレー大学から福井大学に留学していたジェニファーさんの実家がアラスカのアンカレッジにあるので、1 週間ジェニファーさんの家に滞在させてもらいました。アラスカは、私が想像していたよりもずっと都会で、正直驚きました。平日でも車の交通量がとても多く、中心街にはビルが立ち並んでいました。しかし、一旦住宅地に入ると一面の雪景色が広がっていました。幸運なことに､家から野生のムースが見られました。冬になると、食べ物を求めて住宅地に降りて来るそうです。アラスカ滞在中、ジェニファーさんの高校も訪問させてもらいました。ジェニファーさんが教員を目指すきっかけとなった先生にも、お会いすることができました。「生徒の人生に少しでも関われることが、教師としての一番の喜びです」と話しておられる先生の姿がとても印象的でした。その高校では日本語のイマージョンプログラムを行っており、新しい学びを沢山得ることができました。

◆ニューヨーク州（アルバニー，ニューヨークシティー）◆

アラスカの次は、NY のアルバニーに住んでいる友人の家を訪ねました。そこでも約 1 週間滞在させてもらいました。滞在中、アルバニーからバスで 3 時間かけてニューヨークシティーにも 1 日間行ってきました。念願だった自由の女神を見ることができ感動しました。ブロードウェイでミュージカル「オペラ座の怪人」も鑑賞することができ、本当に夢のような一日でした。ミュージカルを見たあとは、タイムズスクウェアを歩き NY の雰囲気を満喫できました。この旅行を計画して、一緒に回ってくれたアメリカ人の友人と、そのお母さんに本当にお世話になりました。友人のお父さんと弟さんも面白い方で、いつも笑い声の絶えない家庭でした。そんな温かい家庭の中で、クリスマスを過ごすことができ最高のクリスマスとなりました。25 日の朝には、クリスマスツリーの下に置かれている沢山のプレゼントを家族みんなであけました。私へのプレゼントも用意してくれてあり、家族の一員として迎え入れてくれていることに感動しました。

◆オハイオ州（イーストリバティー）◆

大晦日から 1 月 1 日にかけては、イーストリバティーに住んでいる友人の家で過ごしました。この友人も昨年福井大学に留学しており、福井で知り合った友達です。こうやって今でも、関係を築けていることを嬉しく思います。イーストリバティーには、ホンダの大きな工場があり、町を走っている車のほとんどはホンダでした。オハイオ州だけでなく、アメリカではホンダやトヨタの車がいたるところで見られました。

◆ジョージア州（サバンナ）◆

冬休み最後の週は、ジョージア州アトランタに住んでいる友人と一緒に車でサバンナに向かいました。サバンナは全米最初の計画都市として建設されたことで有名です。現在では、歴史的な町並みや建築物を再生・保存した観光都市としても栄えているそうです。サバンナでは歴史地区と呼ばれる地区にあるホテルに 2 泊しました。歴史地区にはリバーストリートと呼ばれる通りがあり、そこには 19 世紀の綿花倉庫と通路を再利用したレストランや土産店が立ち並んでいました。2 日間だけでしたが、サバンナの歴史や建築、アメリカ南部のホスピタリティー、料理を堪能することができ本当に良い旅となりました。

2010 - 2011 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 1月分

作成者：山本 由貴
2011.02.12

１月は10日から春学期が始まりました。今学期は、教育学、アメリカの文化学、ライティング、文学分析、演劇学の５つの授業を受講しています。前学期よりも読む量や書く量が増え、さらに忙しい学期になりそうですが、毎日新しい事を学べるので遣り甲斐を感じています。今月の報告書では、いくつかの授業内容について書きたいと思います。また、1月にあったマーティン・ルーサー・キング・ジュニア・デーという祝日についても紹介させて頂きます。

＜春学期の授業について＞

教育学の分野では、フォニックスについて勉強しています。フォニックスは、子どもに読み方を教えるための教育方法として英語圏で用いられています。また、英単語の発音を学ぶ方法の一つとしても知られています。日本でも、フォニックスに焦点を当てた英語教育が行われているところもあります。フォニックス（綴りと音の関係）を学ぶことは、第二言語学習者にとってだけでなく、ネイティブスピーカーにとっても重要なことなのだと授業で実感しています。今学んでいることを、福井に帰って教員になった際に役立てられればと思います。

演劇学の授業では、演劇についてテキスト上で学ぶだけでなく、実際に演技をしてみるなどの活動が沢山含まれています。つい先日、４～５人の班ごとに、自作の劇を発表しました。セリフだけなく、衣装や舞台道具も自分達で手作りしました。今までの授業を通して、自分を表現することの面白さを感じています。演劇学は、ずっと学んでみたかった分野なので、これからどのような事をするのかとても楽しみです。

＜マーティン・ルーサー・キング・ジュニア・デー（Martin Luther King, Jr. Day）＞

マーティン・ルーサー・キング・ジュニアはアフリカ系アメリカ人公民権運動の指導者として活動した人です。「I Have a Dream」（私には夢がある）で知られる有名なスピーチを行い、日本でも「キング牧師」の名で知られています。アメリカではキング牧師の死後、その栄誉を称え、キング牧師の誕生日（1月15日）に近い、第三月曜日が祝日となっています。私は、その祝日を利用して大学主催の「リーダーシップ育成会議」に参加してきました。会議では、キング牧師について学ぶだけでなく、老人ホームを訪問し入居者の方と公民権運動について意見を交わしました。老人ホームを出たあとは、会議に参加した学生同士でDiversity(多様性)についてや、リーダーに必要な資質について議論しました。自分の意見をしっかりと持つと共に、他の意見や考えを尊重できるメンバーと一日を過ごせて、とても良い刺激を受けました。この会議で感じた”passion（情熱）”を、今後の自分の行動に反映させていきたいです。

＜シンフォニー・トレド交響楽団＞

1月28日に、学内でトレド交響楽団によるシンフォニーが開かれました。トレドは、フィンドレーから車で1時間程離れた場所に位置する町です。このシンフォニーには、フィンドレー大学の学生は無料で参加することができます。私は、カンバセーションパートナーのパトリシアさんを誘ってシンフォニーへ行ってきました。このトレド交響楽団は今年の5月に、NYにあるCarnegie Hall（カーネギー・ホール）という歴史あるコンサートホールでデビューをするということでした。今回のシンフォニーでは、5月に演奏する曲が初披露され、会場はとても盛り上がりました。美しい音色に包まれ、リラックスしたひと時を過ごすことができました。

2010 - 2011 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 2 月分

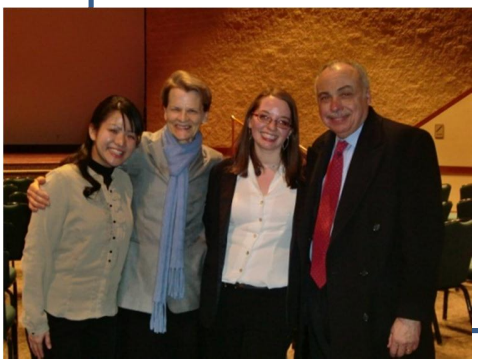
作成者：山本 由貴
2011.03.10

この留学生活も、早いもので残り約２か月となりました。留学中の目標の１つであったTOEICの９００点越えも達成することができ、ほっとしています。また、地域の学校で日本語や日本文化を教える機会をたくさん与えて頂けるので、遣り甲斐を感じています。

２月は、学業・課外活動ともに充実した日々を送ることができました。学内でイベントもたくさん開かれたので、その内容についても報告させて頂きます。

◆Woodrow Wilson Ambassadors◆

２月 6～11 日の間、Africare (アフリケア)の前会長である Julius Coles さんがフィンドレー大学を訪問されました。Africare とは 1970 年代に設立された、アフリカを支援する NPO（非営利団体）です。Coles さんの訪問に先立って、大学を代表する大使が選ばれました。学部と大学院から合計 34 名が選出され、そのうちの１人に選ばれました。とても光栄に思います。私たち大使は１月から会議を開き、アフリカについて共に勉強し、問題意識を持って議論を重ねてきました。Coles さんの訪問中は、キャンパスを案内したり、食事を一緒にとりながら色々なお話を聞くことができました。



また、学内では Coles さんによる講演会も開かれ、アフリカの現状を踏まえて私たち個人に今何ができるのかを共に考えました。Coles さんとの出会いを通して「どんな状況でも常に目標を見据えて、自分を信じ、努力し続けること」の大切さを学びました。

34 名の仲間との活動を通して、新しい友人も沢山できました。大使として活動できたことを大変嬉しく思います。

◆Field Trip in Hamtramck (ハムトラミックでのフィールドトリップ)◆

２月 11 日に、デトロイト近くのハムトラミック市という所に行き、地域の中学校と高校を訪問しました。ハムトラミックという市は、市の人口の約 40 パーセントがイエメンとバングラデシュからの人々で構成されています。私が訪問させて頂いた７年生のクラスは、イエメンからの生徒が半分以上、そして残りはバングラデシュからの生徒で、白人の生徒は２人でした。生徒は皆「diversity（多様性）があるこの学校が大好きで、毎日楽しい」と笑顔で話してくれました。クラスでは、日本文化の授業をさせて頂き、授業の最後には新聞紙でかぶとを作りました。出来上がったかぶとを嬉しそうにかぶっている姿が印象的でした。帰り際には「次いつ来るんですか？」と聞いてくれる生徒もおり、是非また訪問させて頂きたいと思いました。

◆Black Tie Affair◆

2 月 12 日に、学内で Black Tie Affair というダンスパーティーが開かれました。これは、アメリカの高校卒業の時にあるプロムと同じような催しだと友達が教えてくれました。年に 1 度のダンスパーティーなので、学生は皆とても楽しみにしているようです。当日は、女性はドレス、男性はスーツなどを着て会場に集まります。この日のために、ドレスを買っているアメリカ人の友達も沢山いました。バレンタインデーが近いということもあり、会場にはチョコレートのお菓子が沢山並べられていました。友人と共に、アメリカらしいダンスパーティーを満喫することができました。

◆International fashion show（インターナショナル　ファッションショー）◆

2 月 28 日に学内でインターナショナル　ファッションショーが開かれました。このイベントも毎年開催されるもので、それぞれの国が伝統衣装や文化を披露します。主に留学生が中心メンバーとなって準備をします。今年は、日本・アメリカ・中国・インド・サウジアラビアの 5 つの国が参加しました。私たち日本グループは浴衣や甚平を着てステージに上がりました。ステージ上では、剣道・空手・盆踊りの発表を行いました。日本グループの発表には、日本語を専攻しているアメリカ人学生も浴衣を着て参加してくれました。また日本への留学経験のある学生が剣道形を披露し、とても盛り上がりました。アメリカやインドのグループも自国のダンスを披露するなどし、楽しい時間を共有することができました。

2010 - 2011 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 3 月分

作成者：山本 由貴
2011. 04. 10

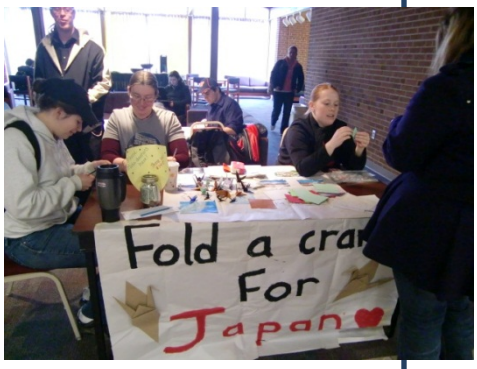
この報告書を書くのも、今回を含めて残り 2 回となりました。今まで読んで下さっている方々、ありがとうございます。残りの報告書も、読んで下さる方に楽しんで頂ける内容を書ければと思います。

今月は第二週目に約 1 週間の春休みがありました。あっという間の 1 ヶ月間でしたが、ボランティア活動や地域の学校訪問を積極的に行ったので、その内容について報告させて頂きます。

◆東日本大震災募金活動・千羽鶴折り◆

東北地方太平洋沖地震のニュースは地震発生以降、アメリカでも新聞やテレビで大きく報道されています。被災された人々の事を思うと、本当に胸が痛みます。日本人として、今ここで私に何ができるのかを、ずっと考えてきました。そして、大学内で募金活動と千羽鶴折りのブースを設けることになりました。日本語を専攻しているアメリカ人の学生や、日本に留学経験のあるアメリカ人学生が率先してブースに立ってくれました。また、私たちの活動を見た他の学生が、足をとめ時間をかけて鶴を一緒に折ってくれました。目標は千羽折ることでしたが最終的に二千羽の鶴が出来上がり、それらは震災で被害を受けた日本の姉妹校へ送られました。また、募金活動で集まったお金は、American Red Cross を通じて日本へ送られました。協力して下さった方々に、心から感謝しています。

被災された方々が、困難な状況の中でも前を向き、手を取り合いながら懸命に毎日を生き抜いている姿からは学ぶべき事が沢山あります。当たり前のように、毎日の生活が送れることがいかに有難いことなのかに気づかされました。今ある生活に感謝しながら、自分にできることを一つずつやっていきたいです。



◆Genki Kids（元気キッズ日本語クラブ）◆

大学内で、毎週月曜日と火曜日に日本語を教える活動に参加しています。計 10 回の授業が組まれており、3 月から始まりました。生徒は小学校 1 年生～5 年生の 12 人で構成されており、このクラブに入って日本語を勉強することを希望した子どもたちです。彼らは学校が終わった後、大学に来て日本語を学習します。日本に興味関心を持った、学習意欲の高い子どもたちと毎回内容の濃い 1 時間を送っています。毎時間、言語材料が決まっており、それらを歌やゲームを通して学んでいきます。歌を歌う際も動作をつけて歌ったり、ゲームの内容も子どもの背景知識を利用した内容にするなどの工夫をしています。回を重ねるごとに「こんにちは！」と大きな声で挨拶できる子どもが増えてきました。日本語を話すことへの恐怖心が少しずつ確実に減ってきていることを感じます。子どもたちにとって、間違いを恐れずに日本語を使える空間を作れるよう心掛けています。彼らとの学習を通して、第二言語を学ぶ過程をもう一度振り返ることができています。また、言語を実際の場面状況の中で使いながら習得していくことの重要性を感じています。残りの授業も、子どもたちにとって「楽しく、学ぶことの多い」授業を作っていきたいです。

◆Foreign Language Club at Van Buren Elementary School (外国語クラブ)◆

大学から車で 15 分ほど離れたところにあるバンビュレン小学校で週一回日本語を教えています。この活動も 3 月から始まり、6 週間のプログラムが組まれています。このクラブでは、日本語だけでなく、中国語・韓国語・スペイン語のクラスもあります。私のクラスは 1 年生から 5 年生までの 17 名で構成されています。初回のクラスで基本的な挨拶と「立ってください」「座ってください」などクラスでよく使う表現を教えました。始めは全く日本語が分からず緊張していた子もいましたが、歌やゲームを通して次第に表情が柔らかくなってきました。授業の最終日には、子どもたちから手紙をもらいました。手紙には「日本語の勉強、とっても楽しかったです。僕は家で家族に日本語を教えます。」と英語で書かれたものなど、読んでいて嬉しくなる内容ばかりでした。自分にできる限りの準備をして毎回授業に臨めたので、学ぶことも大変多かったです。子どもたちとの関わりを通して、「教員になりたい」という自分の気持ちを再確認できました。小学校で日本語を教える機会を与えて頂けて、本当に良かったです。

2010 - 2011 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 4月分

作成者：山本 由貴
2011.05.10

この報告書も今回で最後となりました。報告書を毎月作成することで、自分の今までの活動を客観的に振り返りながら次につなげていく事ができたように思います。読んで下さった皆様、本当にありがとうございました。報告書を通して、アメリカの事やこの奨学生制度に少しでも興味を持って頂くことができたなら、嬉しく思います。

今月の報告書では、大学内でのイベントやシンポジウム、また4月にあった復活祭などについて紹介させて頂きます。

◆International Night（インターナショナル　ナイト）◆

4月8日に大学内で International Night が開催されました。このイベントはお祭りのようなもので、各国からの留学生が中心となって企画・運営をします。1年に一度開催される大きなイベントなので、大学の教職員・学生はもちろん、地域の方々も楽しみにしているようです。

会場では国ごとにテーブルが設置され、その国の遊びや文化を体験することができます。また、国ごとに料理もふるまわれるので、大学のイベントの中でも特に来場者の多い催しとなっています。

今年は、日本のブースでは書道や折り紙、けん玉、だるま落としなどの体験コーナーと、浴衣など伝統衣装の展示コーナーを準備しました。また日本料理として手巻き寿司、肉じゃが、味噌汁を自分たちで作り、ふるまいました。パーフォーマンスの時間には、日本人留学生でよさこいと盆踊りを披露しました。この日のために約 1 ヶ月前から皆で準備をしてきたので、お祭りが終わった際には達成感がありました。フィンドレー大学で出会った日本人留学生の皆とは、この留学期間中、励まし合いながら共に頑張ることができました。この出会いを大切に、日本に帰国した後も皆と連絡を取り合っていきたいです。

◆シンポジアム・研究発表◆

4月 13 日に、学内でシンポジアムが開かれました。学生が日ごろの研究成果を教職員や学生、地域の人を対象に発表することを目的として開催されます。各学部から数名ずつ発表者が選出されるのですが、今回教授からお話を頂き、私も研究内容を発表させて頂くことになりました。私は「日本における小学校英語教育」というテーマで発表をし、参加者の方々から色々なフィードバックを頂きました。シンポジアムと期末試験の日にちが近かったということもあり、発表の準備をするのは大変でしたが、時間をかけた分だけ得られるものも多かったです。海外から見た日本の英語教育という視点も持ちながら、今後もテーマを深めていきたいです。今回参加者の方から頂いた感想や示唆を、教員になった際に役立てていきたいと思います。

◆Easter（復活祭）◆

4 月 22 日～24 日は、Easter（復活祭）をお祝いして大学が休みになりました。この期間、ほとんどの学生は実家に帰り、Easter を家族と共に祝います。私は、Akron（Findlay から車で 2 時間程）という町出身の友人が家に誘ってくれたので、一緒に Akron へ行き、彼女の家族と一緒に Easter を過ごしました。

Easter（復活祭）とは、イエス・キリストが死後、復活したことを祝う日です。キリスト教徒の方にとって、とても重要な祝日となっています。Easter 当日である 24 日には、友人の家族と教会へ行き、その後エッグ・ハントという遊びも体験しました。エッグ・ハントとは、子どもが部屋や庭のあちこちに隠されたカラフルな色の卵を見つけ出すという遊びです。今回友人の家では、卵の形をしたプラスチック製の卵ケースが隠されており、その中にはチョコレートなどのお菓子が入っていました。アメリカの重要な祝日を、友人とその家族と一緒にお祝いすることができ、貴重な経験をさせて頂きました。実際に体験したアメリカの文化を、教員になった際に自分の言葉で生徒に伝えていければと思います。

◆卒業式◆

5 月 7 日に卒業式が行われました。映画などでよく目にする、ガウンと帽子を卒業生は身に着けていました。ガウンに入っている線の色は、学部によって違うそうです。式の後、帽子を投げることは大学の卒業式ではほとんどしないそうで、その様子を見ることはできませんでした。式では卒業生一人ひとりの名前が呼ばれ、名前を呼ばれた卒業生がステージに上がり、学長と握手をして卒業証書を受け取ります。卒業生全員が順番にステージに上がるので、式は約 3 時間ありました。

日本の卒業式は厳かなイメージがありますが、アメリカの卒業式では卒業生の名前が呼ばれると、その家族や友人が立ち上がって「おめでとう！」と言ったりするなど、日米の卒業式で様々な違いを感じました。式の後は、屋外でアーチセレモニーが行われました。フィンドレー大学にはアーチ（門）が一つあるのですが、学生は入学式の後この門をくぐります。卒業するまでは、この門を再度くぐってはいけないという言い伝えがあります。卒業式の後、全員でこのアーチへ向かい、卒業生は入学したときにくぐった門を再度くぐるのです。私も入学式の際に門をくぐって中に入ったので、卒業式当日に卒業生と一緒に門をくぐって外へ出ました。フィンドレー大学の学生にとって、このアーチセレモニーは大切なしきたりとなっているようです。

留学を振り返ってみて「留学させて頂くことができて、本当に良かった」と心から思います。アメリカの文化を自ら経験しながら、そして学びたい教育分野についても学部でしっかりと勉強することができました。また何よりも、今後一生築いていける人間関係が作れたことを嬉しく思います。尊敬できるすばらしい人との出会いが沢山ありました。多くの方の支えがあったからこそ、私の留学生活はこんなにも充実したすばらしいものになったのだと言えます。言葉では十分表現できないほど、心から感謝しています。私がアメリカで経験したこと、感じたこと、学んだことを教員になって福井県の子どもたちに自分の生きた言葉で伝えていきたいです。福井県の子どもたちが、広い視野を持った真の国際人になるために少しでも貢献できればと思います。最後に、このような貴重な機会を与えて下さった方、また支えて下さった多くの方々、本当にありがとうございました。